

藤波こども園

令和6年度 園長だより No.7

令和6年12月5日

文責 澤 悦弘



旧 藤波幼稚園



現 藤波こども園

“高島の秋” を実感 散歩、いもほり、焼きいも



「秋はないの?」と思うほどに寒さを感じる気候になってしまいましたが、子どもたちは散歩で田んぼを走りまわったり、泰山寺で掘ったサツマイモの焼きいもをおいしくいただいたりして秋を感じているようです。

「大きないもが出てきたよ」

★泰山寺でいもほり

ホームごとに泰山寺に出かけ、育てていただいたサツマイモのいもほりを楽しみました。子どもたちはツルを引っ張ったり土を掘ったりして出てくるサツマイモに大喜び。「こんな大きいのが出てきた!」「まだある!」など、大はしゃぎしながら楽しんでいました。



★さくらんぼ広場の親子と上小川の人たち

5月に植えたサツマイモを上小川の方たちにお世話いただき、さくらんぼ広場の親子のみなさんと上小川の方たちでいもほりをしました。さくらんぼ広場に遊びに来ている子どもたちも土の中から現れるサツマイモにびっくりしながら、楽しく掘っていました。



とてもおいしい焼きいもを

いただきました

泰山寺やさくらんぼ

広場で掘ったサツマイモを大師山ボランティアサークルの森田一男さんをお願いし、焼



きいもをしていただきました。また、その準備のために秋永豊子さん、梅村三千子さん、梅村頼子さん、尾崎好子さん、保木有加さんの5名の方には洗ったりホイルに包んだりして準備をしていただきました。できあがった焼きいもを子どもたちは「おいし〜」と言いながら大喜びでいただいていたいました。森田さんは「高島市でのいい思い出を持ち続けてほしい」という思いで小学校やこども園で焼きいもをさせていただきます。藤波の子どもたちも、焼きいものおいしさと一緒に、高島市のたくさんの人に親切にもらった



ことや、人と関わることでいいことがいっぱいあることを忘れずに育ててほしいものです。

発表会に向けて がんばってますよ

花組、星組、月組の発表会がいよいよ明日となりました。運動会などと同じように、発表会の開催も子どもたちの声からです。まず、月組が読んで



らっていた「そんごく」のお話に夢中になり、「発表会をやろう」の声。それから道具を作

たり遊戯場で練習したりしているのを見た星組の子どもたちが「月組さんは何をしているの?」「発表会をするらしいよ」「私たちも発表会をやりたーい」そして花組の子どもたちから「発表会って何?」「それなら私たちもやりたーい」

月組は物語を劇にし、花組と星組は春からみんなで遊んできた内容をステージで演じます。



保育者と一緒にセリフを覚えたり道具を作ったりと悩みながらの日々の連続でした。明日、おうちの方に見てもらおうとはりきっている子や、ステージに立つことへの緊張感いっぱいの子もいます。明日はきっと一生懸命に演技すると思います。どうぞ、その一生懸命さを見てあげてください。

ご寄附をいただきました

青柳仏教会より200,000円のご寄附をいただきました。園庭などの施設の充実のために使わせていただきます。ありがとうございました。

「どっちも悪くないと思うよ!」

～中学生の思いやりある言葉

年下の子のやさしい行動～

散歩に行った時のことです。月組(年長)の男の子2人がどんぐりの実のことでもめていました。きれいな1つのどんぐりの実をどちらも「自分のもの」と言い争っていたのです。

Aくん「これはぼくが拾ったどんぐり!」

Bくん「このどんぐりは昨日ぼくがここで見つけたもの。だからぼくのどんぐり!」

2人はなかなかゆずろうとしませんでした。そこへ職場体験中の中学生がやってきたので、保育者が様子を伝えて「〇〇さんはどう思う?」と問いかけたところ、中学生が言った言葉は



「どっちも悪くないと思うよ!」

それまでどんぐりの実をなんとか自分のものにしようとしていた2人の男の子は、中学生の「どっちも悪くない」の言葉で戦意喪失。その様子を見ていた星組(年中)の女の子が袋からどんぐりの実を1つ出して「私が拾ったこのきれいなどんぐり、あげる」と2人の男の子に差し出しました。それを聞いて2人の男の子は、それまで自分のものにしようとしていたどんぐりの実をお互いに「あげる」と譲り合っていました。

トラブルが起こったとき、間違いを明らかにしようとしがちですが、「どちらも悪くない」と言った中学生や、自分のものを差し出した星組の女の子に「やさしさ」や「思いやり」を覚えてもらったような気がしました。